



事業⑦

亜臨界（水熱）装置を利用した 食品残渣の肥・飼料化施設

全国で初めて亜臨界（水熱）装置を使って食品廃棄物を分解し、ヨーロッパで普及している液体飼料など付加価値の高い製品を製造します。これにより、エネルギー使用量を乾燥による飼料化に比べ60%程度まで削減できるなど、同時に環境負荷を軽減することができます。

○ 事業主体：株式会社小栴屋

○ 事業実施場所：弥富市 ○ 食品廃棄物の処理量：12t/日 ○ 生産量：飼料2.5t/日、肥料14t/日

○ 事業開始：未定（実験中）

■亜臨界（水熱）技術を使った再生処理

通常の発酵では、3～5ヶ月かかる食品廃棄物の分解も、亜臨界（水熱）技術を用いれば20～30分で確実にこなせます。

この亜臨界（水熱）技術を使って、幅広い食品廃棄物から飼料や肥料を製造します。

※亜臨界（水熱）技術とは・・・

高温高压に熱した水と食品廃棄物とを混合して加水分解を促進することにより、飼料や肥料、その他付加価値の高い有機物を生成する。

■付加価値の高い液体飼料を製造

食品廃棄物から飼料を製造する方法としては、乾燥による方法が一般的ですが、ヨーロッパでは液体による飼料化が普及しています。

この液体の飼料は、栄養のコントロールがやすく、エネルギー消費の面でも、乾燥による飼料化と比べて60%程度削減できます。よって、環境負荷を軽減しつつ、付加価値の高い飼料を供給することができます。

